

家族で読書に親しみましょう！！

～子どもが読書習慣を身に付けるために～

乳幼児期から家庭で読み聞かせをしましょう

県教育委員会では、乳幼児期からの家庭での読み聞かせの大切さについてお伝えする啓発小冊子を作成し、ブックスタートの際の副読本や幼稚園、保育所、小学校等で開催する保護者向け研修会のテキストとして活用していただいています。

啓発小冊子の提供や研修会等で講師の斡旋を希望する方は、生涯学習課までご相談ください。

<https://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/kodomo-dokusho.html>



啓発小冊子
「絵本でゆたかな親子の時間」



家族で本を読みましょう

家族で本に親しみ、子どもと一緒に読書の楽しさを分かち合うことで、家族間のコミュニケーションが深まります。

家族で本を読み、その読んだ本について話し合ってみましょう。

地域の図書館に行き、本を手にとってみましょう

新しい発見や心に残る本との出会いが待っています。1か月に1冊、本を読んでみましょう。



青森県立図書館児童閲覧室

子どもの読書に関する記念日

- 絵本週間 (3月27日～4月9日)
- 子ども読書の日 (4月23日)
- こどもの読書週間 (4月23日～5月12日)
- 図書館記念日 (4月30日)
- 学校図書館の日 (6月11日)
- 文字・活字文化の日 (10月27日)
- 読書週間 (10月27日～11月9日)
- あおもり冬の読書週間 (小寒～大寒をはさむ3週間)

青森県子ども読書活動推進計画 (第四次)

計画期間 令和2年度～令和6年度

概要版



～家庭、地域、学校を通じた社会全体で子どもの読書活動推進に取り組みましょう～

子どもは、読書を通じて読解力や想像力、思考力、表現力等の生きるための基礎となる力を養うとともに、多くの知識を得たり、多様な文化を理解したりすることができます。

未来をつくる子どもたちが読書に親しみ、自主的に読書活動をするためには、家庭、地域、学校を通じた社会全体で取り組むことが重要です。

県は、第一次から第三次までの「青森県子ども読書活動推進計画」の理念を継承しつつ、情勢の変化と課題を踏まえ、ここに新たな推進計画を策定しました。

青森県子ども読書活動推進計画 (第四次) はホームページに掲載しています。

https://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/suishin-keikaku_4.html

問 生涯学習課 企画振興グループ TEL 017-734-9888



青森県教育委員会

青森県子ども読書活動推進計画（第四次）概要

課題

基本方針

現状と目標値

推進方策

家庭・地域・学校を通じた社会全体での取組

- 1 公立図書館の機能強化と図書館未設置市町村の解消
- 2 乳幼児期からの家庭での読み聞かせの浸透
- 3 読み聞かせボランティア等の育成と支援
- 4 学校図書館の更なる充実と公立図書館との連携・協力
- 5 不読率の改善

子どもが読書に親しむ機会の充実に向けた取組の推進

子どもの読書活動を支える環境の整備・充実

子どもの読書活動に関する理解と関心の普及・啓発



- ・市町村におけるブックスタート実施率 (H30⇒R6)
75.0%(30市町村)⇒90%(36市町村)
- ・1か月に1冊も本を読まない児童生徒の割合 (H30⇒R6)
小学校 11.3% ⇒ 5.0%
中学校 20.1% ⇒ 11.5%
高等学校 43.6% ⇒ 26.0%
- ・市町村における子ども読書活動推進計画の策定率(H30⇒R6)
77.5%(31市町村)⇒100%(40市町村)

- ・公立図書館等における児童1人当たりの児童書の貸出冊数(H29⇒R6)
7.4冊 ⇒ 9.5冊
- ・ボランティアと連携している公立図書館等の割合(H29⇒R6)
67.5% ⇒ 100%
- ・学校図書館図書標準の達成率 (H28⇒R6)
小学校 45.8% ⇒ 70%
中学校 36.3% ⇒ 60%
- ・公立図書館等と連携する学校の割合 (H28⇒R6)
小学校 56.3% ⇒ 70%
中学校 19.4% ⇒ 30%
- ・ボランティアと連携している学校の割合 (H28⇒R6)
小学校 76.7% ⇒ 90%
中学校 15.6% ⇒ 30%
- ・学校図書館における図書情報のデータベース化実施率(H28⇒R6)
小学校 61.8% ⇒ 75%
中学校 53.1% ⇒ 70%

- ・子どもの読書活動の大切さについて保護者の意識啓発を図る取組の実施率 (H30⇒R6)
60.0%(24市町村) ⇒ 90%(36市町村)

- 1 家庭における子どもの読書の機会の充実
家庭では、保護者が読書に対する理解を深め、自ら読書に親しむこと、子どもと共に読書の楽しさを分かち合い、家族の絆を深め、読書を生活の中に位置付けられる取組を推進することが大切。また、祖父母による子どもの読書活動への関わりも考慮することが必要。
- 2 地域における子どもの読書の機会の充実
地域では、身近に本に親しむことができる図書館の役割が重要。全市町村に図書館が設置され、子どもに読書の楽しさを伝え、読書活動を推進していくための様々な活動を展開していくことが望まれる。
- 3 学校等における子どもの読書の機会の充実
幼稚園・保育所等では、子どもが絵本や物語に親しむ活動が大切。また、保護者に対して読み聞かせの大切さや意義を広く普及することも求められる。
小学校・中学校・高等学校では、読書の機会の拡充や図書の紹介、読書経験の共有により、様々な図書に触れることが重要。特に、高校生の時期の子どもの読書への関心を高めるためには、友人等の同世代の者とのつながりを生かし、子ども同士で本を紹介したり話し合いや批評をしたりする活動が行われることが有効。
また、各教科等において、学校図書館の機能を計画的に利活用し、授業改善を図るとともに、児童生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実することが求められる。

- 1 地域における環境の整備・充実
子どもが生活する地域に読書活動を楽しむ図書館があり、そこに豊富な蔵書が整備されていることが必要。
(1) 図書館等に求められること
①図書の整備・充実 ⑤司書及び司書補の配置
②貸出サービス体制の整備・充実 ⑥職員研修の充実
③図書館等の情報化 ⑦障害のある子どものための諸条件の整備・充実
④児童室等の整備 ⑧運営の状況に関する評価等の実施
(2) ボランティア、民間団体・企業に求められること
①それぞれの活動内容やニーズ等の情報の共有
②それぞれが持つ知識や経験、ノウハウを生かしながら相互に高めあっていく取組
③パートナーシップによる取組の推進
- 2 学校における環境の整備・充実
学校においては、多様な図書に触れ、読書の幅を広げることができる環境の整備が必要。また、子どもの読書活動を支援し、読書指導を充実することにより、読書の量を増やすことのみならず、読書の質を高めることが求められる。
学校図書館は、「読書センター」、「学習センター」、「情報センター」としての機能を果たし、学校教育の中核的な役割を担うことが期待される。
(1) 家庭・地域との連携による読書活動の推進 (5) 情報化の促進
(2) 幼稚園・保育所等の環境整備 (6) 司書教諭を中心とした教職員間の協力
(3) 学校図書館の機能の整備・充実 (7) 学校司書の配置
(4) 図書の整備・充実

- 1 子どもの読書活動に関する啓発の推進
県は、地域、学校、図書館、企業や民間団体等との連携を図りながら、より充実した啓発活動が展開されるよう働きかけるとともに、読書週間、あおり冬読書週間、子どもの読書活動推進大会において、全県的な子どもの読書活動の推進を図る啓発活動を行う。
- 2 優れた取組に関する情報収集と情報提供・3 優良な図書の普及
県は、学校、図書館等、民間団体における様々な取組に関する情報の収集・提供に努めるとともに、優良な図書を家庭・地域に紹介し、優良な図書が、子どもの身近なところに置かれ、いつでも触れることができるよう働きかける。

子どもの読書活動推進のための様々な取組

- 【家庭】
- 読み聞かせ
乳幼児期から家庭での読み聞かせ等、絵本に触れる取組が重要。
 - 「家読（うちどく）」
家族で本を読み、その本について家族で話し合うことで、家族の絆を深めることにもつながる。
- 【地域（各市町村、図書館、ボランティア等）】
- 乳幼児検診等でのブックスタート
図書館職員等が保健所等と連携して絵本をプレゼントし、絵本の選び方や読み聞かせの楽しさなどを保護者に伝える。
 - 図書館等でのおはなし会や読み聞かせの実施
 - ボランティア等の自主的な企画による研修会・交流会の開催、ボランティア同士の連携やネットワークの形成
 - ボランティアとそれを受け入れる学校、図書館、民間企業との間で、活動内容やニーズ等の情報共有
- 【学校】
- 子どもが様々な図書に触れる機会を確保する取組
 - 全校一斉の読書活動（「朝の読書」等）
 - 推薦図書コーナーの設置
 - 卒業までに一定量の読書を推奨するなどの目標を設定
 - 子ども同士で図書を紹介し合う活動や様々な分野の図書に触れる活動
 - ・読書会
数人で集まり、本の感想を話し合う。その場で同じ本を読む、事前に読んでくる等、様々な方法がある。
 - ・ペア読書
二人で一冊の本を読み、感想や意見を話し合う。
 - ・書評合戦（ビブリオバトル）
読んで面白いと思った本について一人ずつ発表し、その発表に関して意見交換を行う。全ての発表が終了した後に、どの本が一番読みたくなったかを多数決で選ぶ。
 - ・図書委員、子ども司書、読書コンシェルジュ等
お薦め本を選定して紹介したり、同世代の子どもの対象とした読書を広める企画を実施したりする。

計画の推進に当たっては、設定した数値目標について、文部科学省や青森県が実施する調査等によって進捗状況を把握し、計画を着実に推進していくよう努めます。

